

“後悔”したくない“航海”

安心と希望という名の航海が、突如、不安と絶望という名の荒波に飲まれる。この船には白紙の地図しかないのか？船長も目的地を知らないのか？エンジンは壊れ、風の向くまま、波に流れるままに動くこの船には、なんの保証もないのかもしれない。

医療という名の“航海”が無事に目的地へ辿り着くには、病院という名の“船”と医師という名の“船長”が航海の安全を保証することこそが全てだ。

その船が危険な船だと前もって知っていれば、きっと誰もその船に乗ることはないだろう。しかし、我々には船の外観しか見えない。エンジンルームに故障があることも、船底に穴が開いていることも、浮かんでいる船からは見ることはできない。

その故障に気づいていながら、修理をせずに危険な航海を続ける船がこの世の中には多く存在するのだろう。

そんな医療のまやかしはどうすれば無くなるのか。

後悔しない航海を実現するために、外観は汚くても構わない、しかし、目には見えないうが最も大切な信頼というエンジンルームを常に綺麗に磨いて欲しい。そう願うばかりである。

事故は終わりではない。人々が安心した航海を、後悔しない航海を送れるよう、その人の人生の時間を奪うことのないよう、見せかけだけの船を作ることは避けてほしい。心から強くそう思う。